

乗鞍岳 (3026. 3m) ・ 焼岳 (2, 399m) 登山紀行



期 日 2013年10月17日(木)～19日(土)

「乗鞍岳を望む」

参 加 石川誠 他1名

行 程

10/17日(木)

朝6時横須賀発～八王子～中央高速～松本IC～乗鞍高原
へ 12:30着

道路は順調で早く乗鞍高原に入った。早かったのが宿に入る前に善五郎滝、三本滝まで足を延ばす。豊平までの乗鞍エコーラインは、前日の台風26号の風雨と冷え込みで凍結しているため通行止めとなっていた。

明日も開通の見込みは判らないという。道路が通行できることを期待して風呂に入りながらゆっくりする。

10/18日(金) 晴れ時々曇り

休暇村宿舎 8:15 発－9:15 着平湯朴の平バス停 9:55 発－
10:40 豊平バス停 10:50－11:20－肩の小屋 11:30－
11:25 乗鞍岳頂上(剣ヶ峰)13:00－14:10 豊平 14:50－15:40
朴の木平 15:45－中の湯温泉 15:45 着



「乗鞍高原の紅葉」

フロントで頂上への通行状況を確認すると未だ通行止解除の連絡なしとのこと、平湯方面からの乗鞍スカイラインは、バスが運行しているとのことで、急遽平湯にある朴の木平バス停に転進する。

このルートは凍結していない様で、既に第一便はスタートしていた。駐車場には前日からの凍結した雪が残っており、店員さんが除雪していた。広場の一角に乗鞍本宮の社があり、ここでご朱印帳に記帳して貰い、頂上に向け出発する。下のお花畑を通過して登山道に行く、うっすらと新雪が積もっていて歩くには支障ない。



「凍る頂上の鳥居」

右にコロナ観測所のドームを見ながら肩の小屋に着く。かなり広い小屋だが、既に小屋終いして日陰には雪がたまり寒々としていた。ここから頂上へは 1 時間程の登りで上に行くほど積雪が見られ、しっかり靴を踏みこみながら登って行く。頂上の鳥居は西からの風雪で氷ついていた。頂上からは北に前穂から奥穂につながる吊尾根と笠ヶ岳、槍ヶ岳が見え、明日登る予定の焼岳も手前に赤茶色く見て取れた。



「剣ヶ峰頂上神社」

槍の奥の山々はもう白銀に覆われ光っており、南に目を転ざると頂上に雪を戴いた御嶽山も見ることが出来、頂上で吹く風は冷たかったが 360 度の展望で、最高の登山日和であった。

宿で作って貰った握り飯を頬張りしばし展望を楽しむ。ここで 2 人のユニークな青年と出会う。（※エピソードは、あとに記す）

頂上からの下りは凍結した道に注意して一路元来た道を畳平のバス停に向かう。

夏は人出も多く、貴重な植物や花々に覆われ大



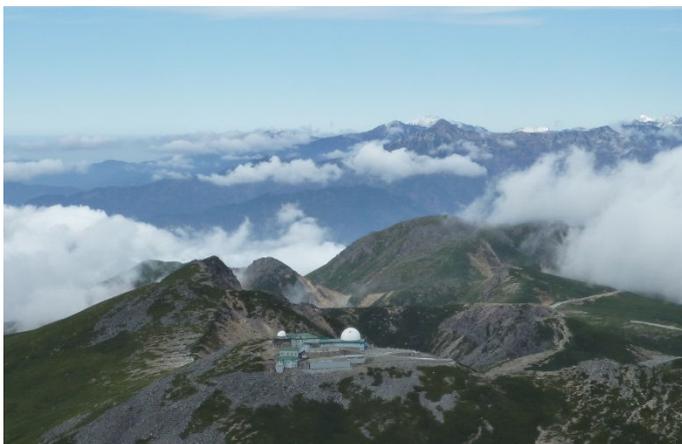
「通行止めの乗鞍エコーライン」

変綺麗だという。バスは 40 分程で駐車場へ着く。

その後安房トンネルを抜けた処にある、秘湯「中の湯温泉旅館」に投宿する。

10/19 日(土) 曇り時々霧雨

中の湯 8:05-8:20 焼岳登山口通過-10:10 下堀沢分岐 11:25 焼岳北峰 11:50-12:55 下堀沢分岐-14:25 中の湯旅館 15:15-中央高速・八王子経由



「乗鞍頂上からの穂高・槍方面」

21:00 帰宅

焼岳中の湯新道コースの登山口は、旅館の裏から登り、9号カーブの脇を通り登山口に入る。

カンバの木やブナの大木の中の急登を登り、倒木や大きな切株の間を通り道は続く。

2 時間程登ると切り倒して作ったベンチが作られている広場に着く。

焼岳の北峰と南峰につながる稜線が見上げるように迫り、北峰の肩からガスの噴煙が白く上がっている。

ここにはカンバの木やナナカマドの木が多く紅葉が美しい処だそうだが、昨日の台風 26 号の影響で木の葉が飛ばされ、ちょっと寂しかった。



「お花畑から畳平方面」



ここからは梓川まで一気に流れ落ちる下堀沢脇を通って登山道が付けられている。

稜線は見えるのだが、頂上付近を歩く人の姿は遥かに小さく、大小の岩の間を見上げながら登って息の切れるルートである。途中の登山道からは正面に 2、3 年前の 5 月に登った霞沢岳が堂々とした姿で鎮座

「広場から焼岳頂上を見上げる」

し、遠くには昨日登った乗鞍岳が雲の中に浮かんでいた。残念ながら穂高の稜線は肩から上は雲に隠れ見ることが出来ない。

コルに突き上げると稜線の脇には噴煙が吹き出し、岩が黄緑色に隆起してあたりに硫黄臭さが漂っている。頂上へは北峰の下をトラバースし、上高地・田代池からの道を合わせ、頂上へと続いている。

頂上からは昨日見えた正面の笠ヶ岳から槍方面の稜線は雲に隠れ、新穂高から上がる途中のゴンドラの駅舎と西穂高岳の小屋は見る事が出来た。頂上の南峰は登山禁



「雲海の彼方乗鞍岳」

止となっていて、周りを囲む岩峰の下には火山湖が緑色の



「鎮座する霞沢岳」

水面を見せて口を開けている。北峰の頂上にはかなりの若い人が集っていて賑やかである。

旅館の話では昨日の朝は穂高連峰も真っ白になったが陽が上がるにつれ、それも消えてしまったとのことである。寒い頂上に長居は無用と上がって来た道を一気に降りる。登山口の近くのカンバの木々は日に照らされ黄色に映えて美しい。

中の湯で汗を流し、車に乗り込む。もう少し時間が早ければ大町の宮沢宅にでも寄ろうかと考えたが、今回は失礼して松本から長野道、中央高速を經由し、双葉SAで食事を摂り相模湖



「頂上直下の噴気孔」

あたりは、雨の中横須賀に無事帰り着いた。

何回か上高地方面に足を運んだ際も乗鞍岳は登っておきたいと考えたが、いつもついでに登ろうとしていたので、なかなか登れず今回やっと登ることが出来た。



*エピソード（乗鞍岳の頂上でであった二人の青年）

1人は京都伊勢丹に勤める青年、お互い写真を撮り合い話しかける。今時珍しく言葉つかいも丁寧で品も良く育ちの良い青年と感じたが、やはりデパートに勤めているとのこと。それも今年中には勤めを辞めるとのこと、このご時世に何故と聞くと、祖父の時代から続くBARを継ぐのだという。このバーは1918年創業で、もうすぐ100年、父親も年を取ってきたので、私が後を継ぐためだとのこと。店の名前は「サンボア」と言い文豪谷崎潤一郎が名付け親だという。由来は果物のザボンから付けて貰ったとのことであった。店の発祥は神戸、現在大阪、京都、銀座に暖簾分けしていて、銀座に行く際には寄ってみてくれというが、我々が行く下町のBARとはちょっと違って敷居が高すぎる感じがするのだが、酒好きの

人にはちょっと立ち寄ってみては如何だろうか。

今後しっかり後を継いで頑張ってもらいたいと思う。

もう一人は、ザックに縫い付けた当会のネームを見て、横須賀ですかと話しかけてきた。

自分も横浜金沢八景にある横浜市大に通い鎌倉に住んでいたことがあるという。横須賀は、汐入や猿島にバーベキューに行ったことがあるので大変懐かしいと言っていた。

今は地元に戻って生活しているという。

鎌倉に住んでいた時に人力車のアルバイトをしていたので体力には自信があり、今日も家から自転車で乗鞍スカイラインを登ってきたという。そういえばバスに揺られて登ってくる途中で休憩し



「火山湖を取り巻く岩峰」

ているサイクリストを見かけたが、その人かと言うとそうですという。そこで先ほどの京都からの青年二人と4人で人力車の話となり、浅草、京都、鎌倉、奈良にも人力車が走っているねと言うと、何のことはない人力車のチェーン店で働いていて、アジサイの時期は鎌倉、紅葉の時期は京都などと出張を命ぜられるということだった。通りで足腰が強く自転車で乗鞍に上がってくるのも合点がゆく。しばし歓談しお互いの健闘を祈って頂上を後にする。みんないろいろな世界で頑張ってもらいたいものである。我々が豊平のバス停に着いた頃、颯爽と手を振って自転車で下って行った。



「紅葉した樹林帯」

でもあの標高差の有る、つづら折りの長い坂道を良く登って来たものだったと思うが、
以前パキスタンのトレッキングの帰りに中国国境のクンジェラブ峠で出会った名古屋の青年も
はるばるトルコ・イスタンブールから自転車をこいで中国・北京まで行くということであったが、
日本の若者たちも頑張っていて、満更捨てたものではないと思った良い出会いでもあった。

記 石川誠

「乗鞍高原・善五郎滝～乗鞍岳頂上を見る）

